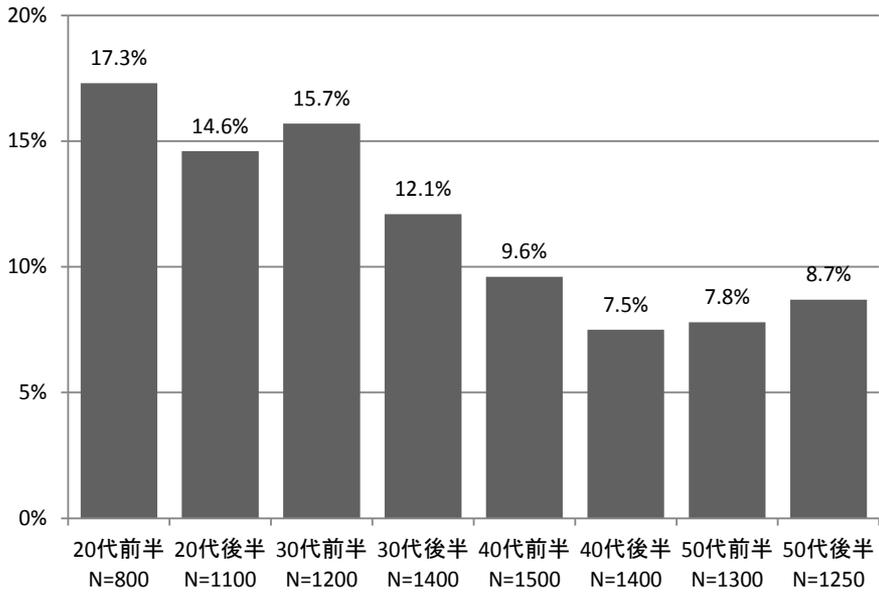


労働政策研究報告書 No.191

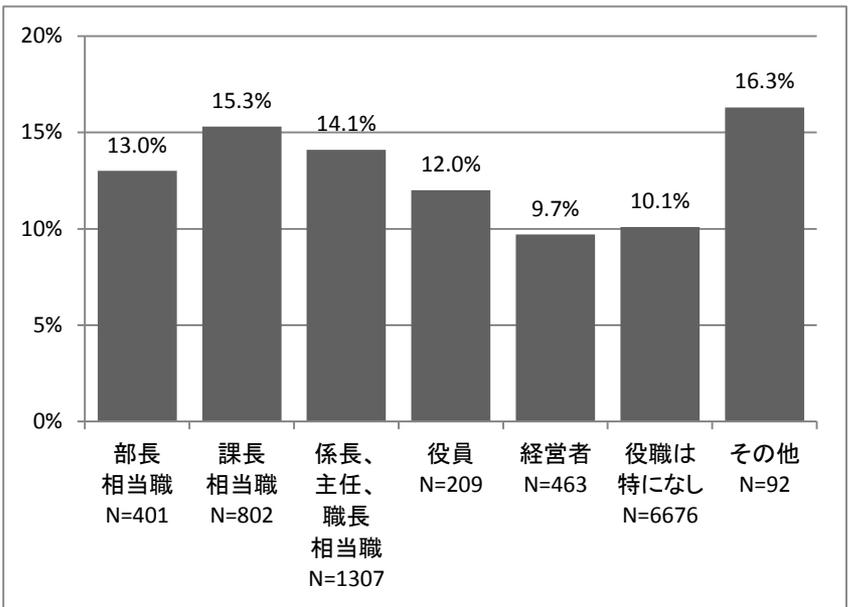
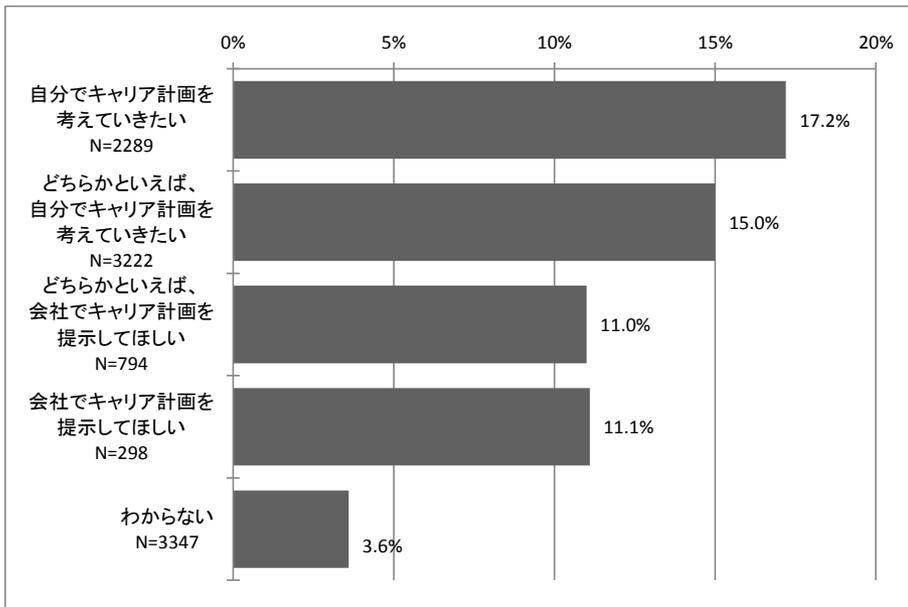
キャリアコンサルティングの実態、効果および潜在的ニーズ—相談経験者1,117名等の調査結果より

(労働政策研究・研修機構, 2017)

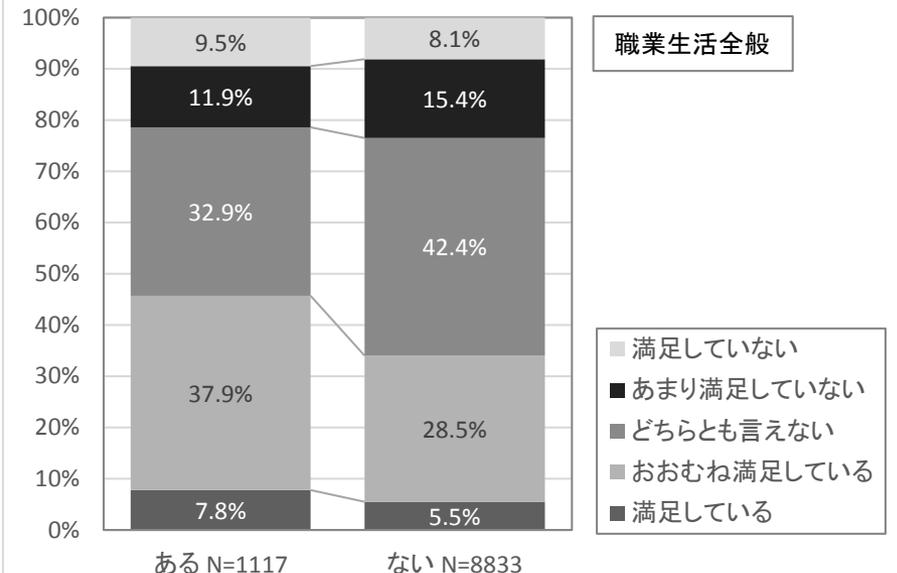
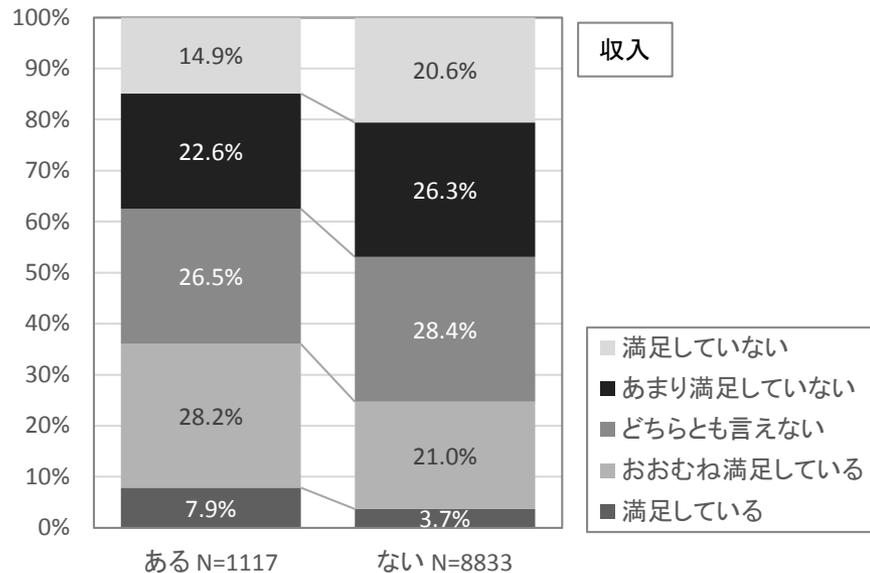
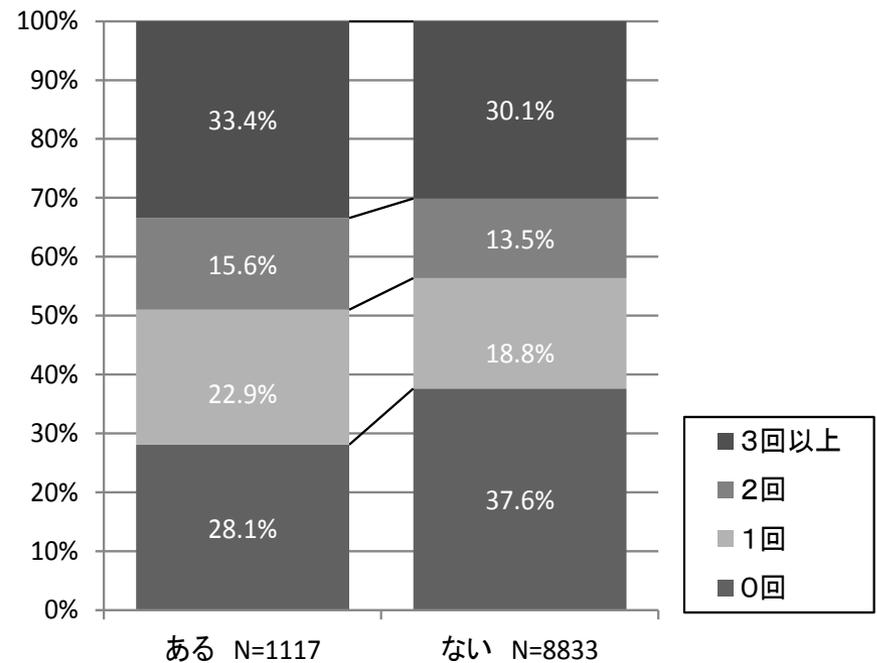
- キャリアコンサルティング経験者1,117名および
キャリアコンサルティング未経験者8,833名の調査
 - 労働力調査から性別・年齢階級別就業者数に比例させて収集。
 - 雇用形態「正社員」66%、「契約・派遣・パートタイム」27%、「その他」7%
 - 職種「管理的な仕事」12%、「専門的・技術的な仕事」28%、「事務的な仕事」25%、「販売・サービスの仕事」20%、「生産工程の仕事その他」16%
 - 勤務先規模「29人以下」34%、「30～99人」17%、「100～999人」26%、「1,000人以上」24%
- 現在、日本でキャリアコンサルティング経験のある者は、
おおむね「11%程度」と推定。
 - 母比率の区間推定の結果、信頼係数99%で下限10.4%～上限12.0%



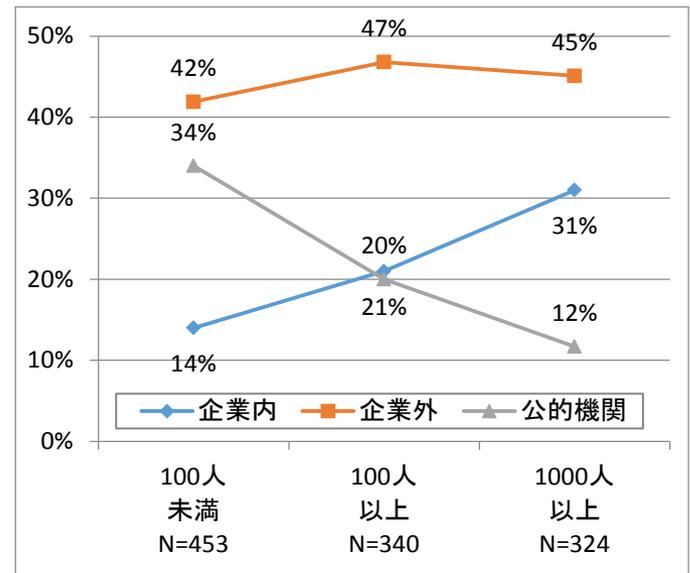
キャリア経験者は、
 (1)年齢が若い層が多かった。
 (2)大企業の大卒ホワイトカラー層が多かった。
 (3)職業やキャリアに対する意識(現在の満足感、キャリア計画、職業能力に対する意識等)が高い者が多かった。



キャリア経験者は、(1)現在、転職している者が多かった。(2)総じて現在の働き方は良好だった。規模が大きい勤務先で働き、役職に就き、年収が高かった。(3)総じてキャリア意識が高かった。現在の職業生活に満足し、自発的に職業能力に取り組む者が多かった。



- 相談内容の上位5位は「転職」54%、「仕事内容」35%、「自分の職業の向き不向き」25%、「賃金や処遇」22%、「モチベーションアップ」18%
- 相談場所の上位3位は「企業外」44%、「公的機関」23%、「企業内」21%（人事部13%、人事部以外9%）



- 相談場所 × 相談内容は、
 - 企業内：「仕事内容」31%、「モチベーションアップ」29%、「転職」28%
 - 企業外：「転職」73%、「仕事内容」33%、「賃金や処遇」26%
 - 学校：「就職活動」79%、「仕事内容」35%、「職業の向き不向き」29%
 - 公的機関：「転職」58%、「仕事内容」44%、「職業の向き不向き」33%

	正社員 N=848	契約社員 N=65	パート N=92	派遣 N=53	その他 N=47	計
企業内(人事部)	14.3%	6.2%	7.6%	7.5%	4.3%	12.5%
企業内(人事部以外)	10.0%	9.2%	4.3%	0.0%	4.3%	8.8%
企業外	47.4%	33.8%	28.3%	35.8%	51.1%	44.3%
学校	9.8%	13.8%	7.6%	3.8%	4.3%	9.6%
公的機関	17.0%	36.9%	51.1%	50.9%	34.0%	23.3%
その他:	1.5%	0.0%	1.1%	1.9%	2.1%	1.5%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※各列で値が最も大きかった箇所に網掛けを付した。

	200万円未満 N=163	200万円以上 N=358	400万円以上 N=292	600万円以上 N=304	計
企業内(人事部)	5.5%	10.6%	14.7%	16.4%	12.5%
企業内(人事部以外)	5.5%	7.3%	9.6%	11.5%	8.8%
企業外	30.1%	30.2%	55.8%	57.6%	44.3%
学校	12.3%	15.9%	5.1%	4.9%	9.6%
公的機関	45.4%	34.4%	13.7%	7.6%	23.3%
その他:	1.2%	1.7%	1.0%	2.0%	1.5%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

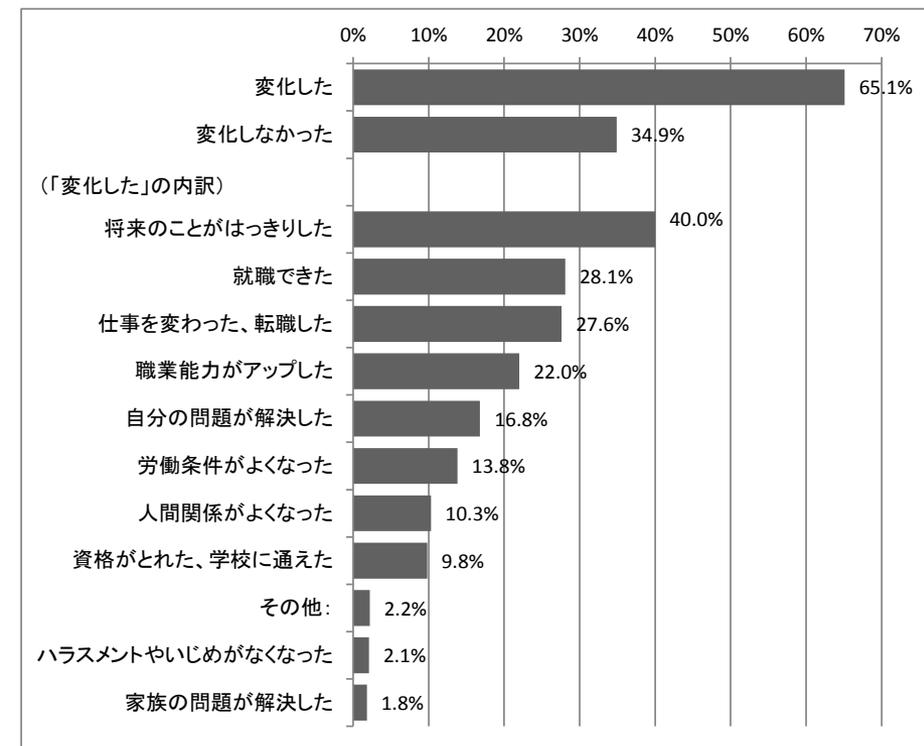
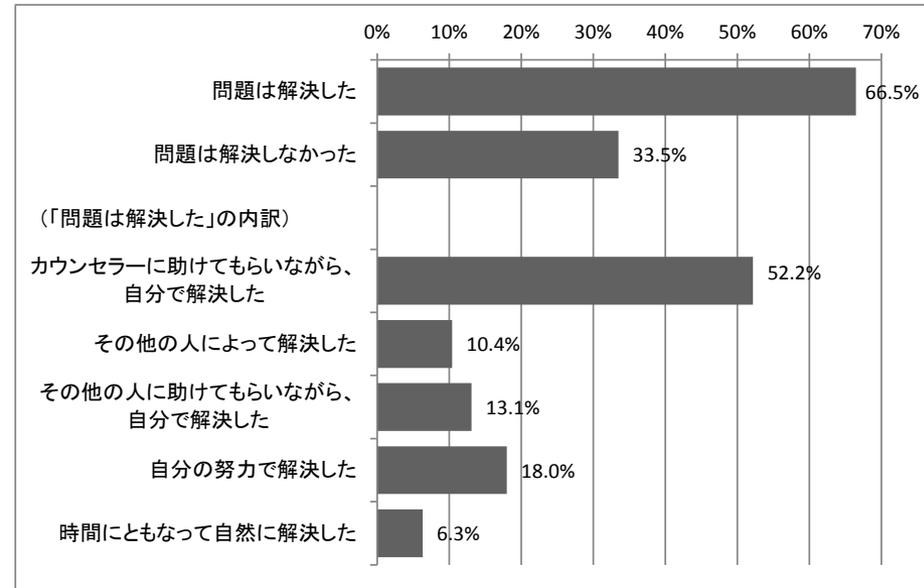
※各列で値が最も大きかった箇所に網掛けを付した。

キャリアコンサルティングの効果について、

(1) キャリアコンサルティング経験者は、概して、カウンセラーの支援によって問題は解決したと回答した。

(2) どのような面で変化したかをたずねた結果、「将来のことがはっきりした」「就職できた」「仕事を変った、転職した」が上位3位であった。

(3) 「キャリアに関する相談の専門家」に相談した者で「問題は解決した」「カウンセラーに助けをもらいながら自分で解決した」「キャリアや職業生活は変化した」の回答が多かった。



キャリアコンに対するネガティブな印象

役に立たなかった

特に役立ったことはない。転職サイトのエージェントは使い物にならないと感じた(24歳男性)

相談員が何をしてくれる訳ではないので、役に立たないと思う(43歳男性)

今後、このようなサービスは受けないほうが良いと理解した(46歳男性)

具体的なアドバイスがなかった

コンサルティングをする側でありながら受け身過ぎ(29歳男性)

こちらの希望に対して、明確なアドバイスもなかった(44歳女性)

私が一方的な話をしただけで何にもならなかった(54歳男性)

型どおりの対応、おざなり

担当者は表面的な話しか分からないようなのに、適当に相槌を打っている(49歳女性)

マニュアル通りにやられるのが伝わるとこちらも虚しくなってしまう。共感して聞くという姿勢がまずないとよくないなと思った(23歳女性)

やや事務的な対応だった(44歳男性)

他人事、親身になってくれない

丁寧だけど親身ではない(27歳女性)

他人事のように親身になっていない(46歳男性)

相談というより相手も仕事なので、親身ぶっていてもどこか信用出来ない(36歳女性)

特定の転職先に誘導している

カウンセラーは自分の営業成績しか気にしていない(36歳女性)

コンサルのノルマをクリアするためだけに、指示をしている印象が強い(47歳男性)

就職が決まればお金がもらえるようで、お金目的で仕事をしている人たちと感じた(46歳男性)

成績の為に利用者の意向を蔑ろにしているような感じがある(29歳男性)

スキルや質にばらつきがある

コンサルタント質のばらつき(55歳男性)

コンサルタントのスキルによって対応がことなる。(35歳男性)

親身になって、こちらの事を理解してくれようとしている方もいれば、希望と全く違う業種、職種を提案してくる方もいる。利益しか考えてない方もいると思った(29歳男性)

キャリア未経験者を対象に相談ニーズを検討した結果、

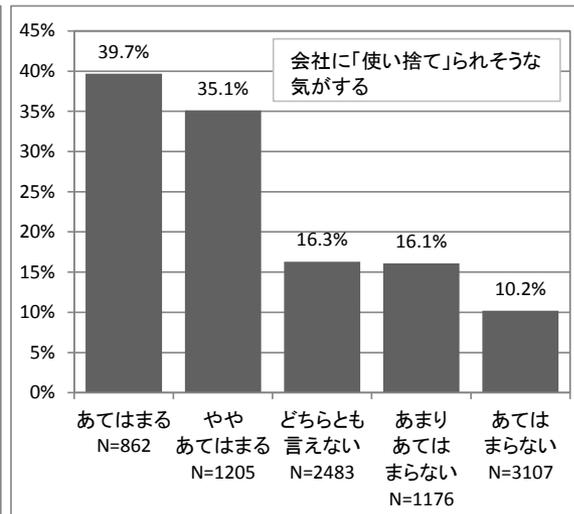
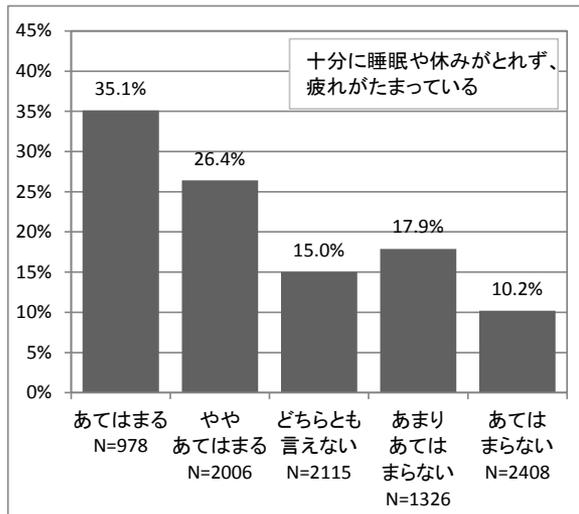
(1) 年齢が若いほど相談ニーズが高かった。

(2) 相談したい内容も年齢で異なった。20代では就職活動、進学・留学、同僚や上司との人間関係、精神面の病気。30代では能力開発や生活設計、昇進等のキャリア関連の相談ニーズが大きかった。

(3) 長時間労働と相談ニーズとの関連も深かった。

	20代 前半 N=662	20代 後半 N=939	30代 前半 N=1012	30代 後半 N=1230	40代 前半 N=1356	40代 後半 N=1295	50代 前半 N=1198	50代 後半 N=1141	合計
相談したい	9.2%	9.1%	7.9%	6.2%	4.2%	3.4%	2.3%	1.2%	5.0%
どちらかと言えば、相談したい	16.8%	20.2%	17.4%	17.1%	14.7%	10.7%	9.6%	8.0%	13.9%
どちらとも言えない	32.2%	30.7%	32.4%	32.9%	35.7%	35.1%	31.6%	32.3%	33.0%
どちらかと言えば、相談したくない	12.2%	13.4%	13.3%	14.2%	14.1%	14.6%	13.4%	15.1%	13.9%
相談したくない	29.6%	26.6%	29.0%	29.6%	31.3%	36.3%	43.2%	43.5%	34.1%

※各年代で最も大きな値に網かけを付した。



賃金や処遇について	28.0%
転職	24.8%
自分の職業の向き不向き	20.9%
仕事内容について	20.2%
定年後の就職、仕事について	19.7%
職場の上司との人間関係	16.8%
職業能力の開発・能力アップ	16.0%
将来の職業生活設計	15.9%
資格取得	15.7%
モチベーションの低下	15.1%
職場の同僚との人間関係	14.1%
精神面の病気・不調	13.6%
残業や労働負荷について	12.7%
結婚・出産・育児	8.2%
その他の個人的な深刻な悩み	8.0%
家族の介護	7.5%
職場の部下との人間関係	6.6%
その他の病気・入院	6.6%
配置転換・出向・転籍について	6.3%
昇進について	6.3%
人間関係以外の仕事上のトラブル	6.3%
学生時代の就職活動	6.2%
会社の倒産・リストラについて	5.0%
職場外の人との人間関係	4.8%
(学生時代以外の)就職活動、求職活動	4.1%
進学・留学など	2.9%

調査を通じての考察

- 【実態】キャリア経験者は20代～30代前半に多く、その相談内容はもっぱら転職であった。今後のキャリアの具体的なイメージとして、30歳前後の就労者の企業外における転職相談を適切に意識する必要がある。特に、この領域のキャリアは一定のボリュームゾーンである一方、応対するキャリアの質やスキルにはばらつきがあり、キャリアの質向上の議論と並行して何らかの積極的な対応を要する。
- 【効果】キャリア経験者は、キャリアをおおむね効果ありと感じていた。なかでも「就職」「職業の向き不向き」「資格取得」「能力開発」「キャリア計画」などの職業やキャリアに直結した内容で、より有益であったと評価されやすい。一方、職場の人間関係、精神面の病気・不調などの相談も、キャリアに持ち込まれているが、現状では対応が十分ではなく今後の課題である。
- 【ニーズ】キャリア未経験者のうち、年代が若い層には一定のニーズがあり、20代後半で約3割に達する。基本的に大企業に勤務する若年正社員でニーズが高かった。なお、長時間労働等の働き方の問題を抱え、かつ会社側から適切に扱われていないと感じられている場合は、より相談ニーズが高い。長時間労働に象徴される働き方の問題とキャリアコンサルティングの関わりについては今後、より一層の問題関心が持たれるべきである。